

8月の暮らし

夏休み中の非行防止

環境衛生の推進

広報かわにし

発行所 川西町役場 編集人 星名四郎 郵社 円
 発行長 川西町 印刷所 星白 1 名南 5
 (町長 中村 壮吉) 定価

人口の動き
 8月1日現在
 男 6723人
 女 6944人
 計 13667人
 世帯数 2715世帯



☑ 八月の行事

- 一日 川西中学千手校舎一部 移築始まる
- 二日 移動庫庁
- 三日 知事来庁
- 四日 土地改良総代会
- 六日 定例教育委員会
- 七日 園保連合会
- 八日 立秋
- 十日 交通安全対策懇談会
- 十三日 お盆
- 十四日 白倉ポンプ入魂式
- 十五日 終戦記念日
- 十七日 橋小水道竣工式
- 二十二日 栄橋陳情(町長)

町づくり休憩

「広報かわにし」のオ1号は三十三年の七月に発行されている。当時、一カ月おきの発行だったことも広報の歴史のひとつになったし、今月で四十六号、年を追って見ると五年目をむかえたこととなる。生まれて五年という、子どもならそろそろ学校という年齢好になり、本紙の編集も二代目が登場して一年余が過ぎたわけである。この概の本筋をはなれて、広報のきた道、あるいは、これからの広報紙をみんなが研究してみたいとぐちをさぐってもよからう。

ふりかえってみると、四年前、一貫して紙面をかざってきたものに「町議会報告」と「戸籍の窓から」(オ5号までは「町の人口動態」という)がある。

このふたつは町民のかたがたがもっとも親しみを寄せてくれた記事のように思われる。もっとも、同じ親しみでもまったく関心の異なった質をもっているわけだが、町議会報告の効果はうんぬんするまでもないことながら、戸籍の窓

町づくり

の場合、川西町という条件によくあてはまった企画のように思われる。どこへも通っても通用するといった企画ではないだろう。かりに「広報かわにし」の骨子のようなものを求めるとするならば、以上のふたつに、本稿「町づくり」を加えて三本の柱となるような気がする。

町づくりは、過去、ここにとりあげられた問題はきわめて広範囲で、そのまま社会教育の場の広さをしめす結果となっているが、この概の論点に対しては、さまざまに御意見が編集部に寄せられたと聞いて好ましい。

広報紙のなたるかを考えてみて、本紙が出はじめたころ「町の声」に「広報の意義は、町民ひとりひとりと町という機構のかけ橋である点につきる」という投書があったことを思いだした。そしてつい最近、本紙の先任者が「毎号の一字一句に神経をすりへらすほどだった」とも言っているのを聞き、町政の本体を平直につたえるのが使命で、それを紙面の片すみまでいかに町民の要求とマッチした編集となし得るかに神経をすりへらす要因をみた思いがする

町議会報告

九二七万の追加を議決

七月中二回目の議会

七月五日に定例町議会を招集して、簡易水道事業給水条例... 七月五日に定例町議会を招集して、簡易水道事業給水条例... 七月五日に定例町議会を招集して、簡易水道事業給水条例...

千小給食棟など

建設的な大型

追加予算

一般会計の追加は今回のものが... 一般会計の追加は今回のものが... 一般会計の追加は今回のものが...

が、これは七月五日に請願として提出された町道伊勢平治... 町道伊勢平治... 町道伊勢平治...

以上のほか、役場費(自動車修繕料五万円)... 役場費(自動車修繕料五万円)... 役場費(自動車修繕料五万円)...

仙田中寄宿舎を新築

分校統合へ一歩前進

仙田中学校の冬季寄宿舎について、分校統合とも関連して数往... 仙田中学校の冬季寄宿舎について、分校統合とも関連して数往...

この現状を打開するため当局が地元関係者と検討した結果、去る七月五日の定例会に町長提案として... 地元関係者と検討した結果、去る七月五日の定例会に町長提案として...

川西中

千手校舎を移築

新校舎の建築に伴い川西中学校千手校舎は七月三十一日限り閉鎖... 新校舎の建築に伴い川西中学校千手校舎は七月三十一日限り閉鎖...

請願

町道伊勢平治/友重線改修に関する請願... 町道伊勢平治/友重線改修に関する請願...

その他の議決事項

- 消防可搬ポンプ購入
消防用二十馬力可搬動力ポンプ二台を購入し、一台は国鉄永久公舎、他の一台は才四分団才七部(小白倉)へ配置する旨議決。
小根岸防火用水槽及び導水施設設置に関する請願
小根岸部落は従来水源に恵まれていたため部落用に防火用水槽が...

夏と子どもたち

四季をたがわずまた暑い夏がやってきた。夏といえは家族のたまたまいからひとりの服装まですべてが明るく開放的になる。その反面目ぐるの緊張がゆるんで、不注意と油断からくる事故が起り易いのもこのころである。

子どもと学習

学校から開放され、四六時中自由に使える夏休みといえは、学校の児童、生徒にとっては楽しいものと相場がきまっていたものだが、それはむかしの話で、ちかごろの子どもたちには宿題や学習だといろいろな日課を課せられることが多いので、そうおち

かた

おち遊んでばかりもいられないというのが実情だ。まして上級の学校に進学を志望する高学年の児童や生徒にとっては、夏休みの学習が将来の運命をきめる鍵とあって本人はもちろん家族や親たちにとってもひとしお骨の折れる季節ともなるだろう。

だが、そのために肝心の健康を害してしまつてはなんにもならないわけだから、それこそ灯火親しむべしといわれる読書の秋、勉学の季節にそなえてまず健康といふたてまえから夏には十分身体を鍛えておくという心構えが大切である。

平凡な例だが「よく学びよく遊べ」というのが、夏季の子どもの学習活動を指導する最大の眼目だろうとおもう。

健康の管理
食あたり、寝冷え、日射病など

に注意し、冷水まぎつのような習慣を夏のうちにづける。

口、生活の規律

就寝と起床の時間をきめ、夜ふかしや朝寝坊にならぬよう。八、庭の掃除や部屋の後片づけなど身体や年令に応じた家事の分担をきめて、毎日実行させる。

二、朝の涼しいうちに勉強を済ませてあとのびのびと遊べるように学習時間をきめて、規則正しく勉強する。

以上は極めてありふれたあたり前のことだが、家庭でも本人もつな例外をつくつて規則を破りがちなものだからはじめから例外をつくらないように、家の人ひともしつよになつて実行することが大切である。

子どもと災禍

一瞬のうちにはいたいたいな幼児のおととい生命の灯が消えていくことの災禍は、依然としてそのあとを絶たないばかりか、年を追つて増加していくことは、なんといつても悲しむべき現実で痛ましい限りだ。

交通事故死、墜落死、水死、子どもの事故についての記事が新聞に、ラジオに、テレビに報じられない日はないくらいだが、とりわけ最近水死が圧倒的に多いのは夏という季節のせいでもあろうが、しかもその水死のうちで一才から四才までの幼児が大きな比率を示していることは、それらがひとりあるきのできない年令であるだけに、いままらながらおとなの責任の重大さを痛感させられるのである。

盆おどりに思う

あれはたしか昭和二十年の夏軍用機の爆音が盆おどりのリズムをかんでくれたことがあった。あすをも知れない身にあつた筆者が、本土の上空を最後に飛んでいたときのことであつた。終戦もまぢかな八月の、あわたたしい夜だつたことを記憶している。

あれから十七年、十二社の森からなつかしい盆おどりのうたがえがきこえてくるころになつた。コーホー、ヤーノーホラーヤーといふあの真調をおびたメロディーをきくと、平和な豊かなふるさとで、「生きていく」実感がしじみとわいてくる。

社会教育

このところ、上野発の列車は連日すしすめだとか、この町にもお盆がえりの人たちがぞくぞくとつめかけているようだ。

墓参をすませたあとにはきまつておどりを見物し、歌いおどる。啄木が疎をきいたようにふるさとの香をなつかしむのである。ところが、盆おどりのムードを期待してやつてきた人たちはだれもが「つまらなかつた」といひ、往年のおどりが新民謡のカゲにうすれていることを悲しむ。「やつと仲間にはいつたら、トタンにレコードがかかつてそれっきりの」ともらしたパパさんがいた。「あのころはゲタの音や手の上げ下げまでそろつていた、それがねえ、まるでテララメじやないの。」こらうなげいたおばさんは三十年ぶりの里がえりだつたのだと。

この盆おどりも、大正の初期までは音のままであつたらしい。それが、オ一次大戦を終わるとともに俗悪化され、デカダン的なものになつて今日にいたつたようだ。近年「明るい盆おどり」が叫ばれるようになったのは、あのころから多くなつたヒワイな歌謡を掃いて、昔から受け継がれてきたものを正しく歌いおどることが目的であつた。それが、新民謡の波に押されるのは、明るい盆おどり運動とは全く別な講習会で得たものを、「これを新時代の盆おどり」と誤解しているからである。

仙田に残る酒田ぶしは、昔交易のあつた柏崎地方から伝わつたものといわれる。しいたげられた当時の農民たちが、毎年の苦しい年買にあえぎながらも、一あの山がみんな米だつたらどんなにすばらしいだろう。沖にいっぱい並んでいる船にみんなタダで積んでやるものを」とうたつた祖先がしはれる。先年、盆おどりに来町した作家の東条寿三郎氏は、一うちこえを使つたあのふしまわしは全くすばらしい。この歌が全国に紹介されたらひえつさふし以上に流行する」といってくれた。事実、あのうち悲しいメロディーはきく人の心をうつすにはおかない。

現在、郡市内の社会教育関係者が、先人たちのおりにしてきた文化を後世に伝えようとして古い民謡の歌詩や民俗資料を調査している。愛ほつする社会の中で、こうした過去の文化が加速度的に失なわれていくからである。と書きまゝにお盆、みたまのめいふくを祈りながら、心に生きていく郷土の民謡を保存しよう。

赤ちやんの心 その二

おとなしすぎる赤ちやん
あんまりおとなしすぎて、気味が悪いほどの赤ちやんがあります。しかし、生後一カ月ぐらゐの赤ちやんで十分お乳をのんでこんこんと眠り一日四回ぐらゐの授乳で、日増に太つていく、しかも目がさめていれば、ひまなしに手足を活発に動かす赤ちやんはいくらおとなしくても心配いりません。生後一週間はこうしてほとんど泣くことがなかつたという赤ちやんもあつた。育てやすい赤ちやんとはどうした赤ちやんのことをいうのでしょうか。ところが、こんなおとなしい赤ちやんでも、人手が多かつたりして一日中下におかれなほほどあの人の手、この人の手に、だかれているとだんだんと泣き虫になつてゆきます。また、同じようにおとなしい赤ちやんでも、お腹がすいているようなのに泣きもいないし、手足の動きもあまり活発でなく、しかも自分のふえ方が悪いくさすらしい。この歌が全国に紹介されたらひえつさふし以上に流行する」といってくれた。事実、あのうち悲しいメロディーはきく人の心をうつすにはおかない。

保健婦室

知つたようなことをいってくれませう。ところが、皆まぢまぢのことをいうので遠方に暮れ、おかあさんはいずれもこれもと手をつくし罪もない赤ちやんをいじりこわしてしまひます。もともとがおとなしい赤ちやんに対しては、おかあさんもついほろり出してしまひます。ことに二番目、三番目になると手が足りないからこれさいわいとほろろっておきます。すると、赤ちやんはいよいよおとなしすぎる赤ちやんになつてしまひます。こうした赤ちやんは、えんこやははいがでるようになってからも、おとなしい傾向が強く、ひとりで遊べが得意で、おもちゃでひとりで長時間遊んでいられ、ねむくなればころりと横になつているといふありさまです。このような赤ちやんでも、特別な場合を除いては特に心配する必要はありません。しかし生後半年をすぎたら、たまには子どもといつしよに遊ばせてやるべきです。また社会性を養つてやるために、だいて相手になつてやることも大切です。

アセモの科学

暑い夏、体温が上昇するのを防ぐために全身から汗が大層に出てそれが蒸発する際多くの熱がうばわれます。衣服や帽子でおおわれているところでは湿度の高い体温と同一温度の空気ができるため、汗は蒸発できないのでこたまります。そして汗の刺激によつて炎症をおこしますアセモのアセモです。したがってアセモの手前は汗を常に清水で洗い流してヒツの刺激をなくすることが大切です。

ふるさとをさぐる ①

酒田節

お盆がやってくる。

故郷をなれてる人にとつてふるさとの思い出は、ひとつひとつが自らの心の在り方を定めてくれたものだといひ、そのなかでも盆おどりのふんいきはなつかしいもので、盆おどりの歌を久しぶり、聞くと、胸がジーンとしまつて、知らぬ間に涙ぐんでしまつとも聞いている。

川西町の盆おどりは、いろいろ多様な形を見せているが、三階節や大の坂などは代表的なもので、だいたいどこへいっても歌われおどり継がれている。

ところが、仙田で踊られている酒田節(サカタブシ)は、郡市内はおろか県内でも珍しいもので、学界からも強い関心が寄せられている。

酒田三ノ丁の酒屋の娘

昔に聞けども目に覚え

えぬ

女房衆の切下げ髪は

風も吹かぬにそよそよと

酒田高野の浜米ならよかる

沖の船頭衆に只積ましよ

会津若松露所の御番

関所知らぬで笠ぬがぬ

歌の文句は、このように、山の中の村でうたわれるものとしては想像もつかないことばばかりだが、いったいどういふものなんだらうか。

才三句の「沖の船頭衆」は、むかし「沖の弁財衆」と歌ったので

はないかと考えられている。そして、この歌の本家本元は出羽の酒田港であることは確かである。この二つの点を究めていくと、ある程度は、仙田に海の船の歌がなぜ残っているかがわかるような気がして来る。

酒田港は、むかしから有名な米の積出港で、日本海岸の重要な位置とされてきた。徳川時代は、私たちの祖先たちが血と汗で送り出した年貢米もここを通過して江戸に送られた(東廻り)。

また、米だけでなく、多くの貨物が入りしりたり、そのために当時の経済中心地であった江戸や大阪の相場を知らせてくれるところでもあった。

中世時代に、弁済使(ベンサイ)という官吏があつたのを、転用して弁財衆といつて当時の経済変動のなめを握つてゐる船頭にあてはめたといふが、新開の港町ののどけい多くの知識を待っていた舟師衆たちが、その土地土地に教え残していったのが酒田節だといふ。

こういう歌が越後の海にも入りこみ、仙田を抜けて柏崎へ往き来た中魚沼の人たちの間に流行して来たのではないだろうか。

柏崎街道の要点であり、さらに中魚沼の玄関であった仙田に、この歌がとくに残されているのは、私たちの祖先の歩んだ道を再び歩いてみるような気がして、何かしらほのほのと心ゆくも思ひがする。合の手掛の多い歌として、も特別なものであり、裏声を使う歌い方も珍しい。優雅な酒田節をことしのお盆も楽しみたい。

カ・ハエ退治のひけつ

◎目先の成虫だけを追いかけている

(忘れられた発生源)

◎ハエの発生源は便所だけだと思つて

(便所は二流の発生源)

◎小さな水たまりほどカ

の発生が多い

(庭先にボーフラを飼つている)

百匹のハエをたたいても、翌日にはまた百匹のハエがやってくる。かんじんの発生源がそのままになっているからです。また一通り間ごとに便所の消毒をやつていながら、ハエが少しも減らないという地区も多いようです。目につきやすい便所のハエは、尾の長いハナアブの幼虫であつたり、春先や真夏に多いクロバエやニクバエの幼虫が多く、これらのハエは家中にあまりはいつてこない種類です。すから、もっと重要な家の中に多いハエバエなどの発生源をならうべきです。

イエバエの発生源は、ゴミだめや畜舎、野積みの堆肥などであり小児マヒの媒介者キンバエは魚の糞物のまじったゴミや動物の死体などがホームグラウンドです。カの場合には家のまわりの小さな水たまりほど大量のボーフラを育てます。庭先に放つてある小さな空だるから一度に三千匹ものボーフラが発生します。

日本脳炎の媒介者の、発生のもっとも多いアカイエカは、ほとんど家の回りの下水、ドブ、用水桶、ヤブカは竹の切株、墓地の花

立でありコタアカイエカは水田池、沼など比較的広い水域から発生します。こうしたそれぞれ特有の発生源を綿密に調べて、成虫となって飛び立つ前に正しい対策をほどこすことが、ハエ、カ駆除成功のカギといえます。

◎殺虫剤はまきさえすれば効くと思つて

(殺虫剤への盲信)

◎農薬だけで力が減ると思つて

(他力本願のゆきずき)

現在市販されている殺虫剤は六六六種類にもほりますがそれぞれ有効性も製剤のかたちもちがっています。使用する対象や場所に応じて適確な使いわけをすることが必要です。また殺虫剤にはすべて散布規準量がありますので、せっかくなにも量が不足で効かない場合もあります。ですから、薬剤を選んで適所に適量をまくことが殺虫剤の効力を百パーセント発揮することになります。農村では農薬が使用されてから急激に力が減つたというムードがありますが、地域によってはこのムードに酔いすぎてカの対策を忘れたために日本脳炎の大流行をきたしたことがあります。日本脳炎を媒介するカタアカイエカは、水田や用水などから発生しますが、このカの多発期(七、八月)と農薬使用が必ずしも一致していない地域もあるわけですから、水田の除草や定期的な乾田化さらに成虫のすみかである畜舎などにダイアジノンやリンドレンの残留噴霧をするなど、地域をあげての対策が必要です。

かわいらしい

十七夜のお稚児さん

ことしの十七夜行事は手観音境内で行なわれ、町の番付大相撲や小学生による鼓笛隊パレード、それにお稚児さんの行列などが加わつて終日賑やかなうちに暮れ、ついでに稚児行列の起りは、郷土出身者(郷友会四百余名)の中で三年前から十七夜会がつくられ、この人たちが幼き日のケイパで囃した十七夜をしのぶため、伊友の長徳寺さままで一有効に使つてくださった」と大枚五千円を送つ

てきた。長徳寺の奥山住職は、始めてのころみだが、折角の厚意を無にしないようにとお稚児さんの行列を考えたという。「みなさんが大変喜んでくれてうれしい」と語つていた。

なお、郷友会の人たちは毎月定例日を設けて世々木の青年会館に当番制で集まり、名物の小島屋ンバやボーダラなどを口にしながら故郷に思いを寄せ、お互いのつながりをもつてゐるそう。



